

地域の健康づくりって何でしょう

保健所で仕事をしていて考えたこと

岩永 俊博

岩永 俊博とは 熊本県生まれ、熊本大学医学部卒業

1980年～1990年

熊本県牛深保健所、人吉保健所、阿蘇保健所の所長

1990年～2002年 国立公衆衛生院疫学部、公衆衛生行政学部

各地での健康づくりの支援を経験

2002年～2004年 国立保健医療科学院 研修企画部長

2004年～2014年

地域医療振興協会 ヘルスプロモーション研究センター

世田谷区とのおつきあいはこの頃(2005年ごろ)から始まりました。

平成17年度、健康づくりプラン改定のための準備会議の作業部会アドバイザーに着任

その後、世田谷区の健康づくり推進委員会の会長として、プランの改定や評価などの作業を中心に、いろいろお手伝いをしてきました。

1980年～1990年 熊本県牛深保健所、人吉保健所、阿蘇保健所の所長

保健所の仕事とは何だろう
地域での健康づくりって何だろう

どんな仕事をしていたかというと……

認知症にならないようにしましょう

身体が不自由にならないように病気にならないことが大切です

運動しましょう、食事に気をつけましょう

休養をちゃんととりましょう、健診を受けましょう

そして、ふと感じたことは……

がんばる人はがんばるけど、そうも出来ない人も……

がんばっても病気になる人も……

がんばらなくても元気で長生きする人も……

そもそも健康づくりとは何を作るのだろうか？

そういうときに、神経難病の患者さんたちと出会いました。

とても大変な病気を持ちながら一生懸命生きようとしている姿でした。

うーん？ これって健康なのでは？

そんなことを考えてきて、私たちは健康づくりの目的としての健康を分けて考えることに気づきました

健康づくりの目的としての健康

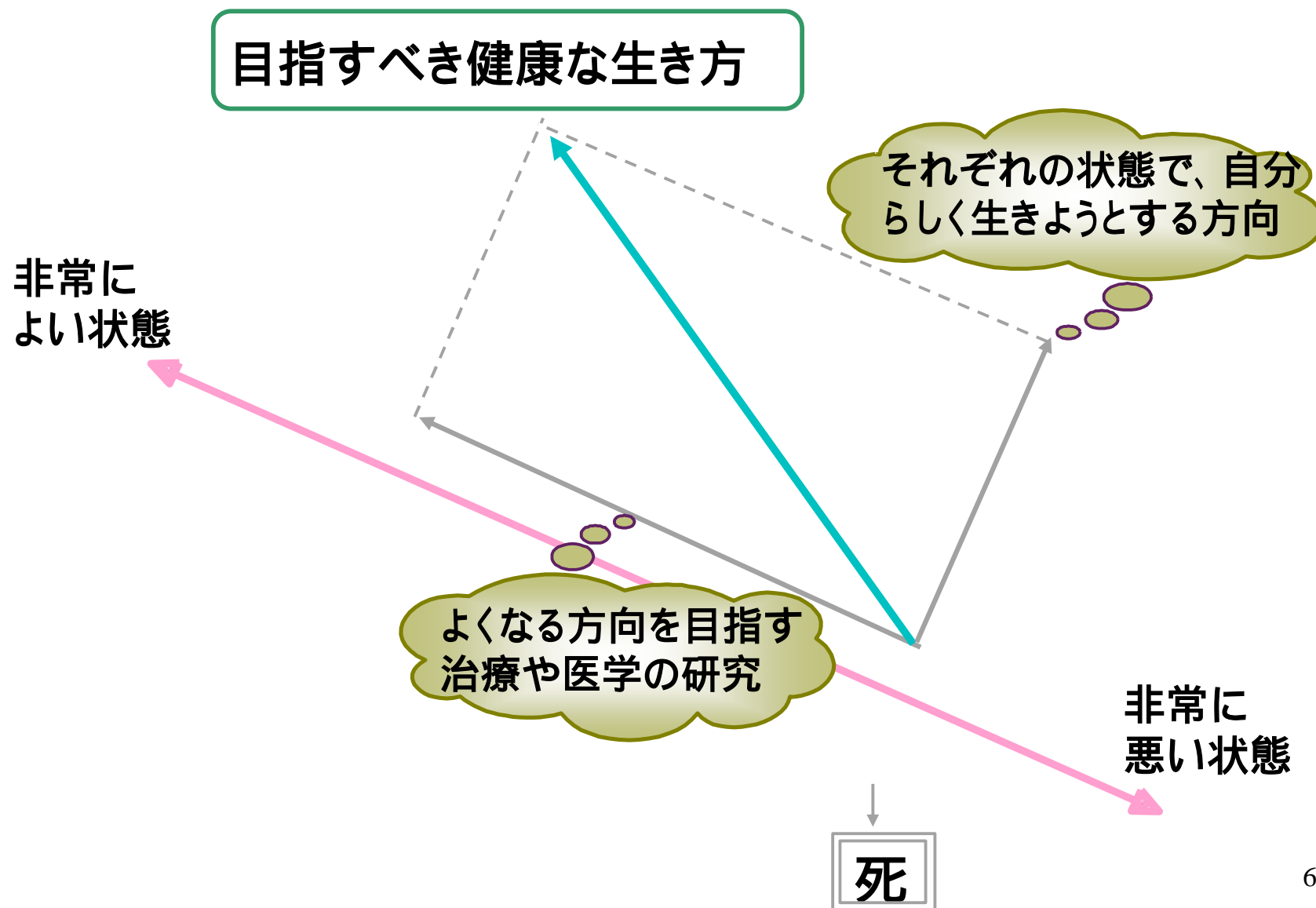
病気かどうかという意味の健康

病気があるかどうか重要なことになる

生き方としての健康

自分の状態をどう捉えて、どう生きるかが重要なことになる

健康づくりの目的としての健康



地域の健康づくりでは

地域の人たちが、自分たちなりの「目指すべき健康な生き方」をもって、それを実現することができるようになること

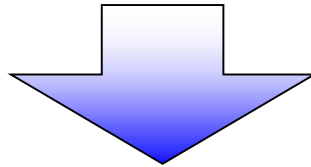
自分たちなりの健康な
生き方を自分たちで
考えることができる

自分たちの地域の状
態を知って、必要な行
動をとることができる

専門家の支援
家族や近隣の理解と支援
さまざまな制度や社会のしくみ

では、具体的な健康な暮らしの姿とは……

例えば、寝たきりになっても、花見に行きたい
なと思う、そういう気持ちを持ち続ける



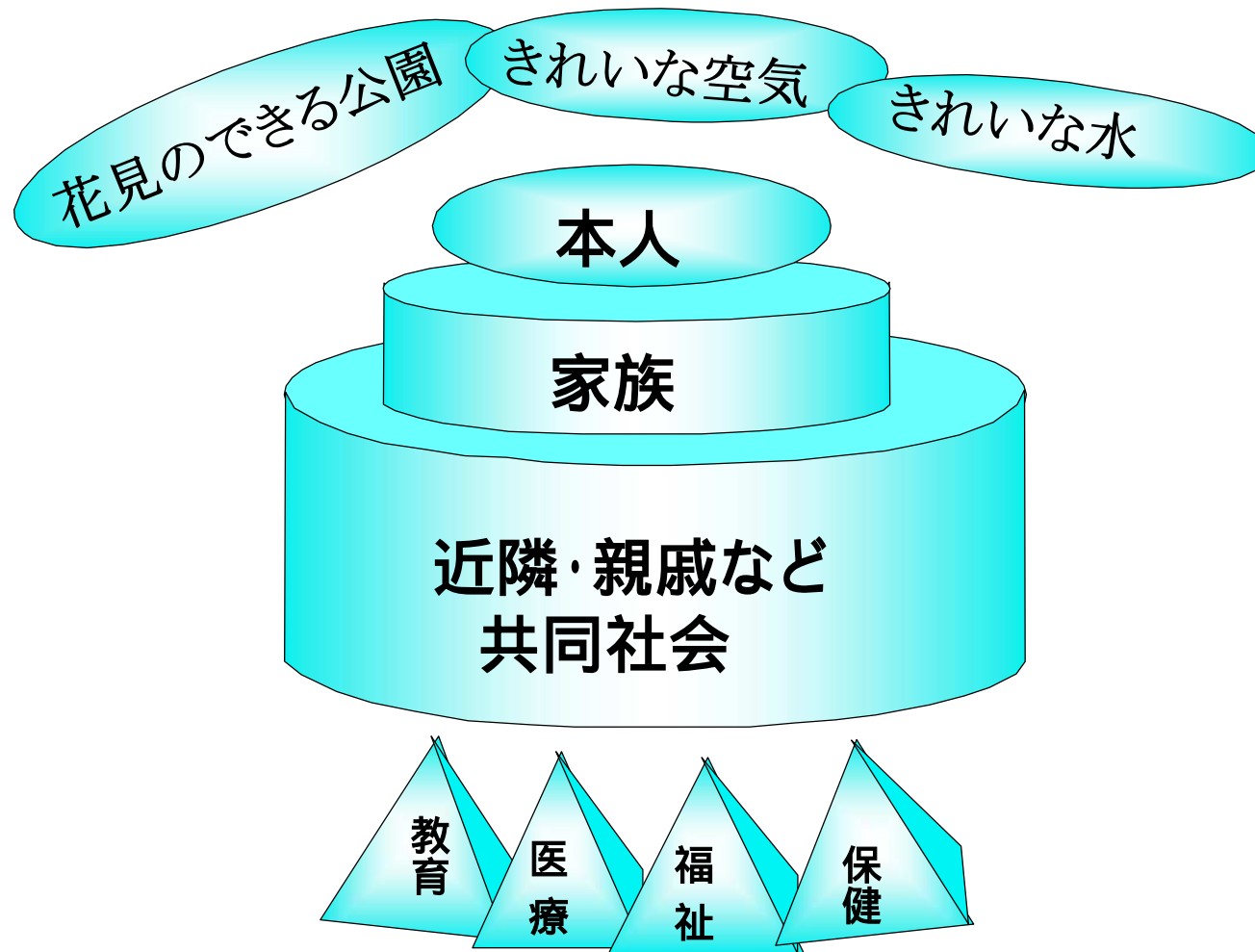
そういう気持ちさえあれば、健康な生き方ということにしよう

そこで「健康な暮らしのできる町」とは

例えば、寝たきりになっても、安心して、楽しく花
見に行くことができる。

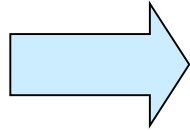
そのような私たちの町を実現するためには……

寝たきりになっても、安心して、楽しく花見に行くことができるためには……。



健康な暮らしを実現するための地域のしくみ

地域の健康づくり

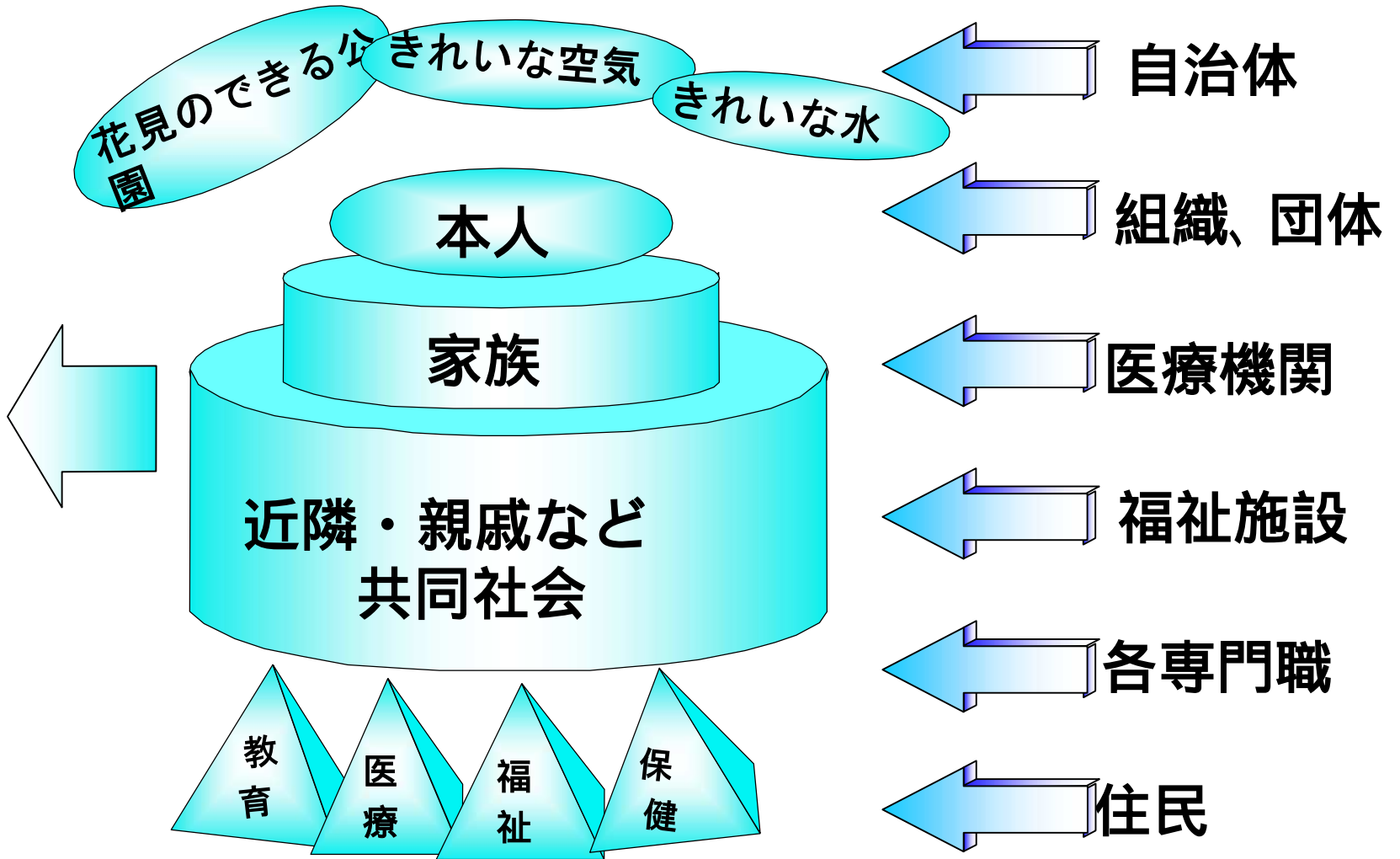


自分の地域に仕組みを創造する

その旗頭こそ、保健所の役割？

寝たきりになっても気軽に花見に行ける町

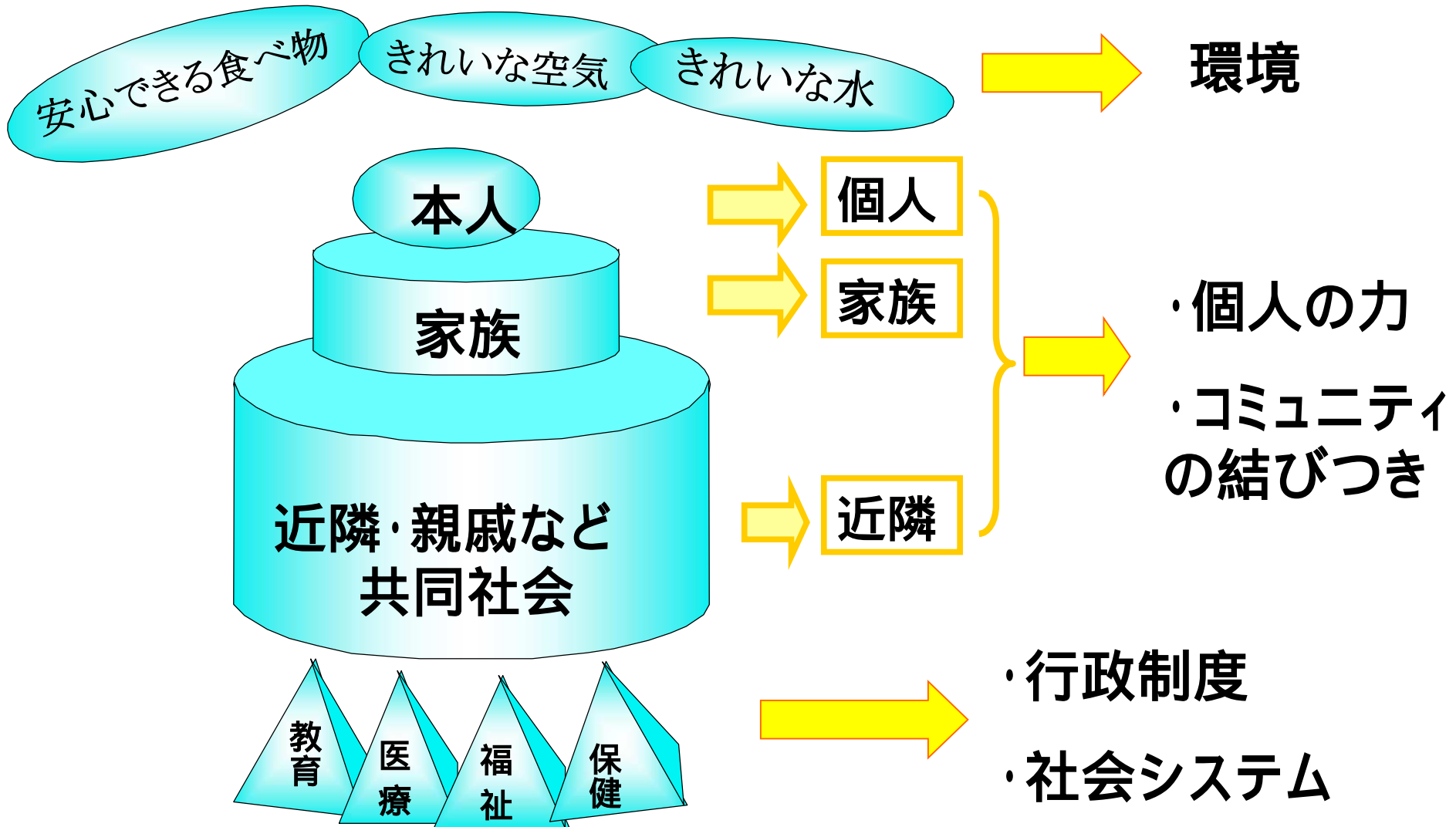
健康な暮らしのできるまちの実現



そうか、健康づくりとは「しくみ
づくり」「地域づくり」なんだ！！



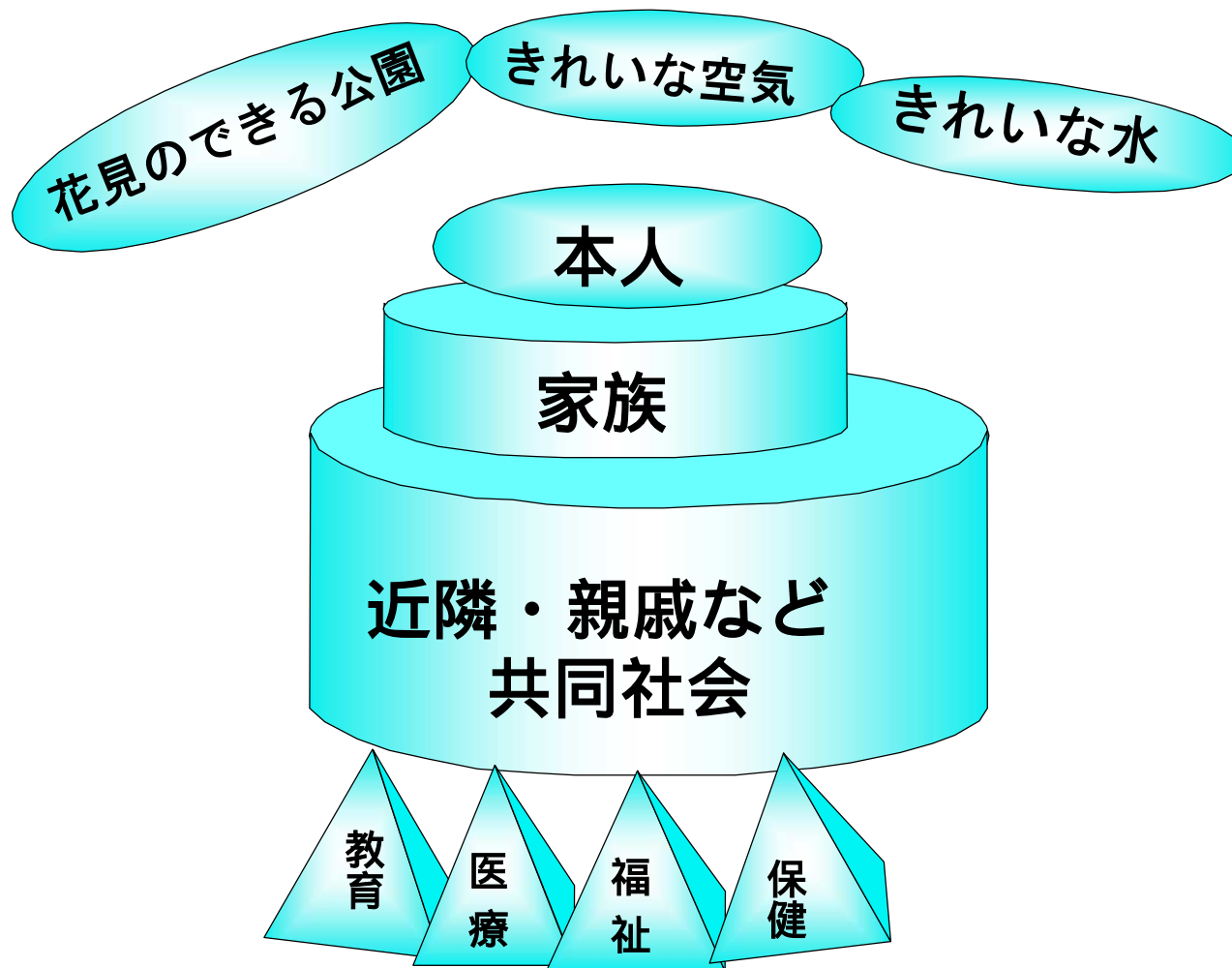
住民の豊かな暮らしを実現するための地域のしくみ



地域で、必要な仕組みを考えつくるプロセス

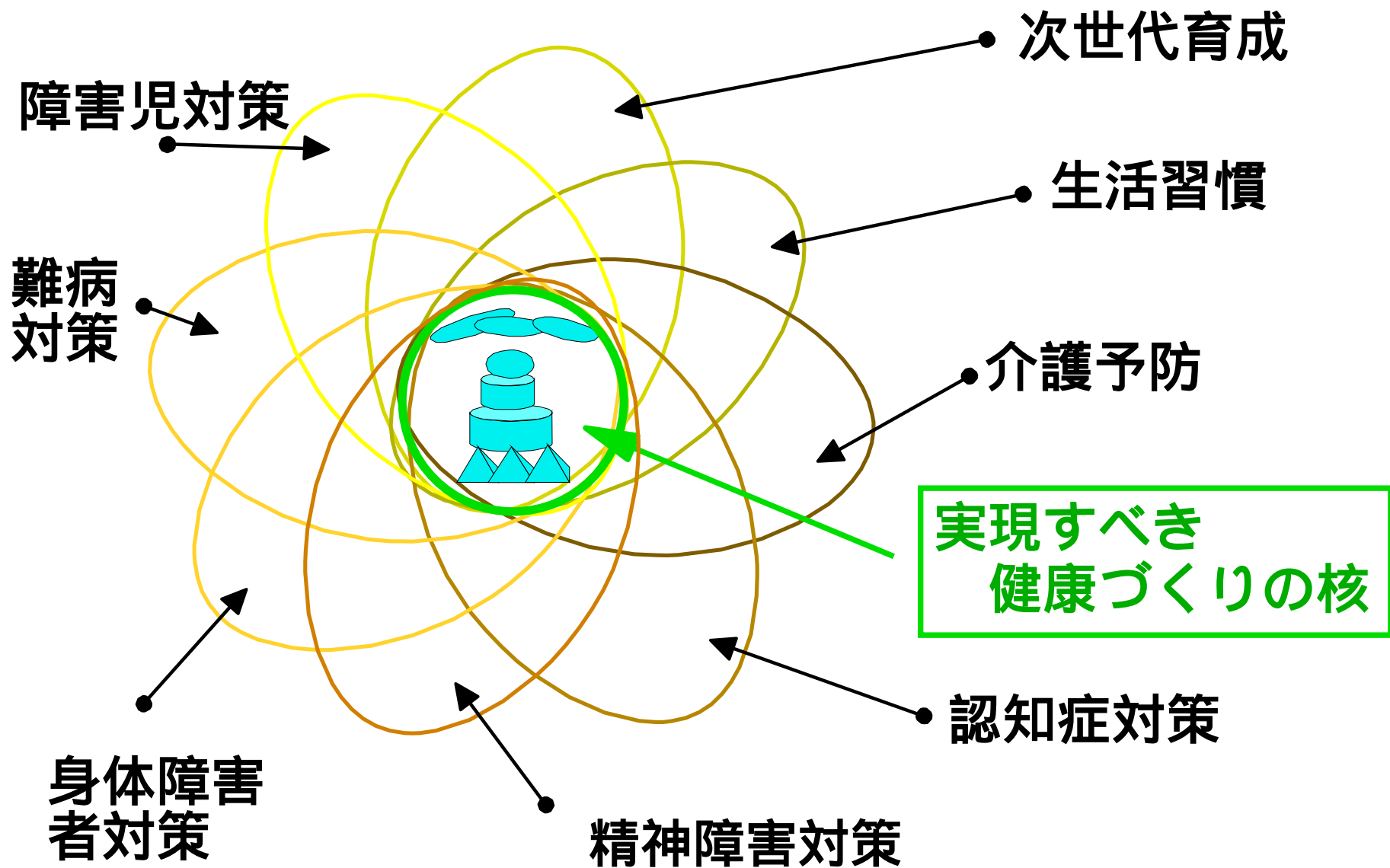
計画づくり

計画書づくりではない



これは、高齢者のことだけではないのでは・・・

地域保健福祉の構造



事業や業務がバラバラに行われている

難病対策

孤独児対策

次世代育成

生活習慣

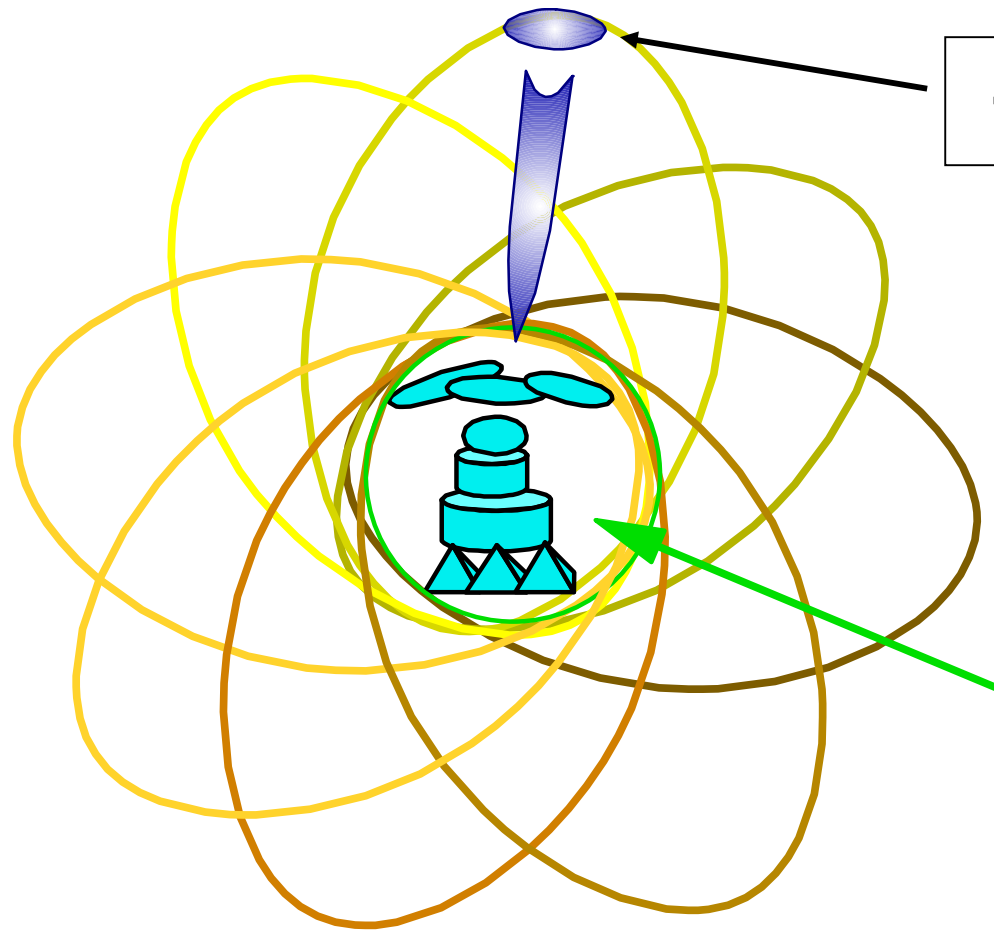
身体障害者対策

精神障害者対策

介護予防対策

認知症対策

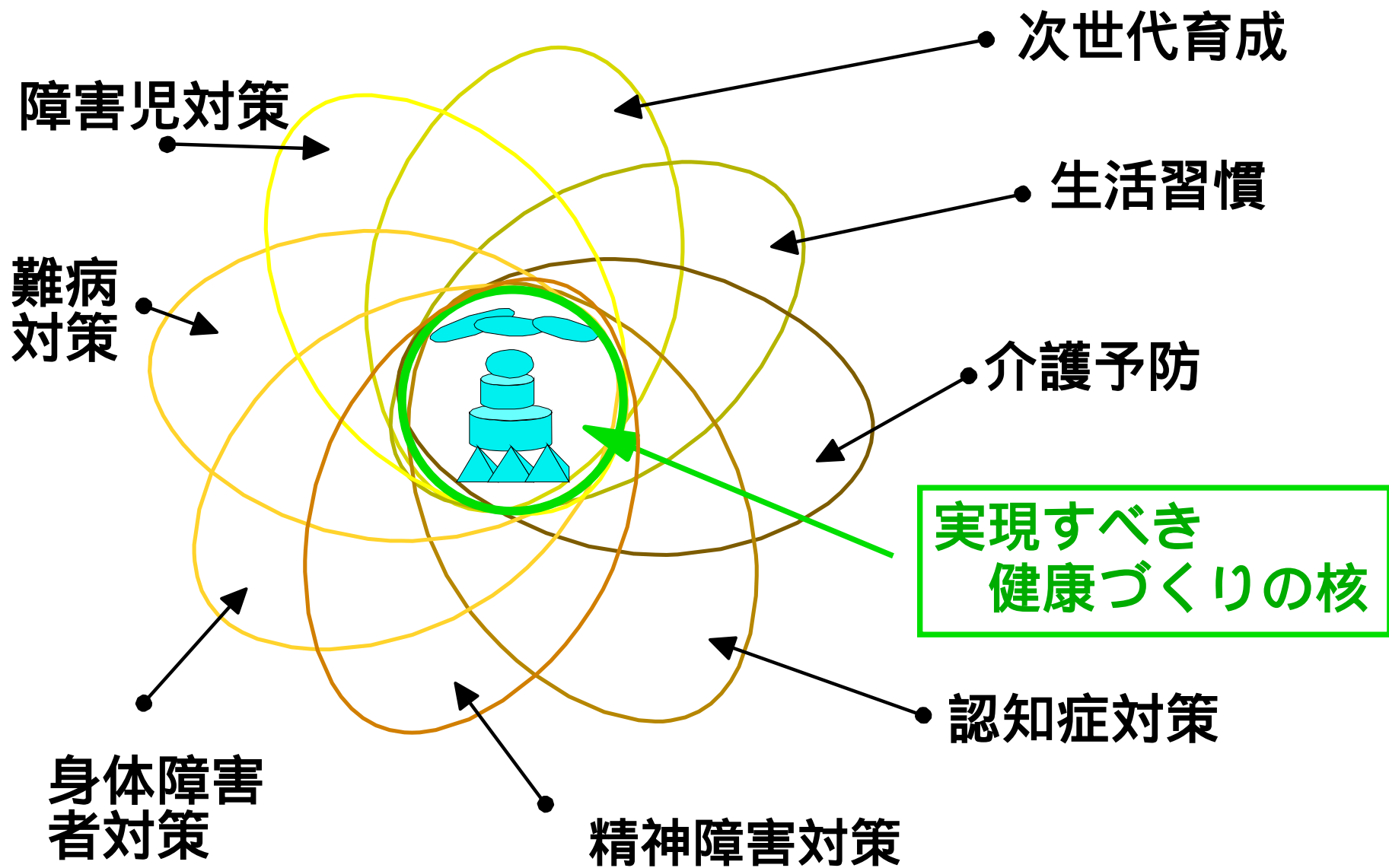
一つの事業、あるいは業務を入り口として
核の形成を目指す



一つの事業または分野

実現すべき
健康づくりの核

地域保健福祉の構造



一緒に考えたり共有することは、
時間のかかることです。

しかし、新しい家を建てる時のように、丁寧に設計図を考え、その中での住民や行政の役割を考えながら活動を進めていくということをしないと、いつまでたっても、市民の健やかな生活は実現しないのではないのでしょうか。

大切なことは、活動の実践そのものではなく、その活動で得られる私たちの健やかな暮らしということのはずです。